



ウイルス性クループが増えています！

10月になり朝晩の寒暖差が大きくなり、風邪をひくお子さんが目立つようになりました。発熱で来院されるお子さんのなかに、**犬が吠えるような、オットセイが鳴くような咳をする人**がいます。これは気管の入り口の喉頭(声門周囲)に炎症を起こしているためで、**特徴のある咳に声がれと息を吸うときの呼吸困難(ヒューと音がする)**を伴った呼吸状態をクループ症候群といいます。原因は、**大部分がウイルスの感染によるもので、パラインフルエンザ I 型、II 型が多い**とされています。現在、市内で流行しているクループ症候群のお子さんからも**パラインフルエンザ I 型が分離**されています。

クループ症候群の症状がみられたら、できるだけ速やかに医療機関を受診してください。 急に呼吸困難が進行して息ができなくなることがあります。**とくに0歳児、1歳のお子さんは要注意**です。気管支が細いので、喉頭が炎症をおこすとあっというまに呼吸困難になる可能性があります。治療としては、原因ウイルスに対する特効薬はありませんが、炎症を抑えて腫れをとるような吸入やステロイド剤の内服が効果があります。早期受診をお願いします。

乳幼児のコロナワクチン始まる！

11月中旬から6か月～4歳の乳幼児を対象にコロナワクチンの接種が始まります。今治市の接種方式は個別接種で行われます。

【接種回数と間隔】**合計3回の接種で初回接種完了。1回目と2回目は3週間間隔、2回目と3回目は8週間間隔あけて接種**します。

【発症予防効果】**3回目接種後7日以降の効果は73%**。

【ワクチンの副反応】**1歳未満では易刺激性(不機嫌)が最も多く、発熱は7%程度。2～4歳では接種部位の痛みが多く30%、発熱は5%程度。**現時点で安全性に重大な懸念は認められていません。

乳幼児向けコロナワクチンリーフレット →
お問い合わせは今治市ワクチン本部まで。



10月の感染症情報

発熱を伴うウイルス性の風邪が増えました。何種類かのウイルスの感染が混在していると思われます。発熱、咳が長引くときは、RSV、ヒトメタパラインフルエンザなどの感染の可能性があります。コロナの患者さんは激減しました。発熱で抗原検査陽性になるお子さんは稀になりました。手足口病が少し増えてきています。



10月の利用状況

10月の利用延べ人数は110人で、1日の平均利用人数は5.5人で、先月に比べて約3倍に増えました。コロナ以外の風邪の患者さんが増えたことによるものです。年齢別では2歳児が35人で最も多く、次いで1歳児の34人でした。今月は6歳の年長児の入室が5人ありました。疾患別では急性上気道炎が68人で最も多く、その他RSV感染症、インフルエンザA、突発性発疹などの入室がありました。いくつかの風邪のウイルスが混在して流行しているため、室内感染を防ぐため入室時に極力原因ウイルスの特定を行っています。感染症の種類によってはお断りすることがあることをご了承ください。